

公益財団法人痛風財団  
平成26年度事業計画書

1. 基本方針

痛風・高尿酸血症の発生機序や診療に関する我が国の研究は世界トップレベルの水準にあるものの、これに従事する研究者や医師の数は未だ充分とは言えず、またその為の研究費の不足状態は続いている。当財団はこれ等研究者への支援助成や一般医師への診療研修並びに一般国民への啓発事業を推進し、国民保健の向上への寄与を更に深めるために活動することを基本理念としている。

この活動を支える資金は、賛助会費と寄付金及び保有債券の利息収入を主な財源としており、これ等は何れも引き続き厳しい情勢が続くことが予想されるが、26年度もかかる前提を踏まえつつ工夫を重ね事業の更なる充実を計る予定である。

2. 計画内容

(1) 研究助成

◇ 対象

当財団の助成を基に各種研究や新薬の開発など多くの成果が得られているなかで、今後更に奥深い効果が期待される研究課題を掲げる団体・共同研究グループ及び個人に対して支援助成を行う。助成は、臨床的色彩の濃い研究や基礎的色彩の濃い研究及び一般研究を対象として応募を受け付ける。

申請受付は平成26年9月1日より同10月31日までとする。

◇ 助成金総額予定 700万円

◇ 選考

理事長が専門分野を考慮して委嘱する10名前後の選考委員による合議により選考を行う。

選考委員は提出された申請書の研究課題を予め採点し、その集計結果を参考として12月初旬の選考委員会に於いて審議の上対象者と個々の助成金額を決定する。

◇ 研究成果概要報告

当該助成に関する研究成果については平成28年2月までにその概要報告の提出を求め、これを取り纏めて全ての関係者に配布する。

(2) 第25回医師対象痛風研修会

全国の医師や薬剤師など医療関係者を対象として、痛風・高尿酸血症についての新しい研究成果についての講演と診断や治療についての研修会を平成26年9月7日(日)に東京慈恵会医科大学で開催する。本年度の研修会プログラムは財団研修委員の山本徹也兵庫医科大学名誉教授と谷口敦夫東京女子医科大学教授により、本年6月までに決定

し公表する予定である。

(3) 痛風協力医療機関の拡充

当財団に寄せられる一般からの問い合わせで最も多いのが医療機関の紹介依頼である。痛風協力医療機関として当財団が推薦する機関は現在139機関あるが、未だ一般への便宜に応えるには不十分な地域があり、痛風研修会参加医師への呼びかけや関係者からの紹介などを通じて推薦する医療機関を増やすよう努めて行く。

(4) インターネットホームページによる啓発事業

近年の若年層や女性の痛風患者の増加傾向も反映してか当財団ホームページへのアクセス数も年間30万件を超え、これに応じて痛風の基礎知識から医療機関の紹介まで、医療関係者のみならず全ての人々に役立つ情報の提供を心掛け、本年も更にその充実を計る予定である。

(5) 小冊子「尿酸値をコントロールする」や会報の発行

尿酸値に関する豆情報を纏めた小冊子の要望は大変多く、協力医療機関を通じて希望する患者へ広く行き渡るよう手配するほか、個別の要望に対しても都度対応して行く。又、研究成果や医学情報などを掲載した財団会報を新春と夏の年2回発行して賛助会員他全ての関係者へ届け情報伝達を計っていく。

(6) 一般からの質問に対する対応

患者や家族その他一般からの質問や問い合わせ件数も依然増加傾向にあり、質問の内容は医療機関の紹介依頼から始まり、食事や飲料に関する注意点や痛風の治療に関する事など多岐に亘るが、これ等質問に対しては当財団が推薦する協力医療機関を紹介し、専門的内容についてはそれぞれ専門家に問い合わせ、その助言を質問者へ伝えて居る。これ等一般への啓蒙助言活動は今後もきめ細かく対応して行く予定である。

以上